

令和 7 年度行政評価 《事業評価調書》

事業名 看護師確保対策事業費		担当 保健所保健総務課			
事業概要	市内医療機関における看護職員の安定的な確保を目的として、新卒者の確保、既卒者の確保、離職防止に資する取組を実施する。				
	事業費(A)	概算人工	人件費換算(B)	トータルコスト(A)+(B)	
R6決算	千円	人	千円	0	千円
R7予算	2,200 千円	0.3 人	1,722 千円	3,922	千円
目標	市内医療機関における看護職員の安定的な確保に寄与する。				
実績・効果	令和7年度は市内医療機関紹介サイトを立ち上げ、近郊の看護職員養成施設の学生に対して小樽市内の医療機関への就職をPR。 22件の医療機関の情報を掲載				
点検・評価	点検項目	評価		評価の理由等	
	必要性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い		令和8年度から市内の看護師養成機関が市立高等看護学院のみとなることから、看護師の確保対策の必要性が高い。	
	妥当性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い		小樽市看護職員確保対策協議会からの提言を踏まえ、ニーズに合致した取組を実施。	
	有効性	☐ 高い ☒ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い		個々の医療機関では実施が難しい取組を行政が主体となって行うことで、地域ぐるみで課題に対応ができる。	
	効率性	☐ 高い ☒ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い		小樽市看護職員確保対策協議会で協議をすることで、現場の意見を取り入れることができ、効率的な事業運営に繋がっている。	
評価の結果を踏まえた今後の方向性				継続	
【今後の方向性の説明】 中長期的に取り組む必要があることから次年度以降も継続するとともに、離職防止に資するセミナーの実施など、新たな取組を交えた事業展開をする。					

事業名		担当			
事業概要					
	事業費(A)	概算人工	人件費換算(B)	トータルコスト(A)+(B)	
R6決算	千円	人	千円	0	千円
R7予算	千円	人	千円	0	千円
目標					
実績・効果					
点検・評価	点検項目	評価		評価の理由等	
	必要性	☐ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い			
	妥当性	☐ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い			
	有効性	☐ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い			
	効率性	☐ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い			
評価の結果を踏まえた今後の方向性					
【今後の方向性の説明】					

令和7年度行政評価《事業評価調書》

事業名 在宅当番医制事業委託料				担当 保健所保健総務課					
事業概要		日曜日及び休日における第一次救急の在宅当番医制事業を小樽市医師会に委託し、安定的に休日当番医療機関の確保を図り、救急医療体制の充実に努める。							
		事業費(A)		概算人工		人件費換算(B)		トータルコスト(A)+(B)	
R6決算		3,600	千円	0.1	人	574	千円	4,174	千円
R7予算		3,600	千円	0.1	人	574	千円	4,174	千円
目標		充実した医療提供体制の確保に寄与する。							
実績・効果		患者数 令和4年度：5,022人 令和5年度：6,475人 令和6年度：7,223人 充実した医療体制の提供に寄与した。							
点検・評価	点検項目	評価				評価の理由等			
	必要性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い				事業を廃止すると日曜・休日の救急医療の受入体制の確保ができなくなり、安全な医療の提供ができなくなる。			
	妥当性	☐ 高い ☒ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い				医療機関における対応実績に基づき委託料を支払			
	有効性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い				市民アンケートの急病等に対応する救急医療の仕組みの満足度が基準値より高い。			
	効率性	☐ 高い ☒ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い				救急医療体制の中でも棲み分けができており、事業の重複がない。			
評価の結果を踏まえた今後の方向性						継続			
【今後の方向性の説明】 日曜・休日の救急医療体制の確保は必要不可欠であるため、今後も継続を要する。									

事業名		夜間急病センター管理代行業務費		担当		保健所保健総務課			
事業概要		夜間における急病患者が適切な医療を受けられる体制を確保するため、小樽市夜間急病センターを設置し、小樽市医師会を指定管理者として選定し運営を行っている。							
		事業費(A)		概算人工		人件費換算(B)		トータルコスト(A)+(B)	
R6決算		227,800	千円	0.1	人	574	千円	228,374	千円
R7予算		227,800	千円	0.1	人	574	千円	228,374	千円
目標		充実した医療提供体制の確保に寄与する。							
実績・効果		患者数 令和4年度：4,376人 令和5年度：4,804人 令和6年度：4,395人 夜間の救急医療体制の確保及び二次救急の負担軽減にも寄与した。							
点検・評価	点検項目	評価				評価の理由等			
	必要性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い				事業を廃止すると夜間の救急医療の受入体制の確保ができなくなり、安全な医療の提供ができなくなる。			
	妥当性	☐ 高い ☒ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い				人件費については道内他都市の医師の人件費を参考に算出。			
	有効性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い				市民アンケートの急病等に対応する救急医療の仕組みの満足度が基準値より高い。			
	効率性	☐ 高い ☒ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い				救急医療体制の中でも棲み分けができており、事業の重複がない。			
評価の結果を踏まえた今後の方向性						継続			
【今後の方向性の説明】 医師会との協力関係を維持しつつ、受診者数の動向等を踏まえ、将来的な診療体制の在り方を検討していく。									

令和 7 年度行政評価《事業評価調書》

事業名		第二次救急医療事務委託料			担当		保健所保健総務課		
事業概要		市内外の9病院における、二次救急受入に向けた診療体制を整備し、初期救急では処置できない重症救急患者に対する医療提供体制を確保する。							
		事業費(A)		概算人工		人件費換算(B)		トータルコスト(A)+(B)	
R6決算		32,951	千円	0.1	人	574	千円	33,525	千円
R7予算		32,951	千円	0.1	人	574	千円	33,525	千円
目標		充実した救急医療体制の確保に寄与する。							
実績・効果		二次転送件数：令和4年度：668件 令和5年度：592件 令和6年度：623件 救急医療体制の確保に寄与した。							
点検・評価	点検項目	評価				評価の理由等			
	必要性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い				事業を廃止すると救急医療の受入体制の確保ができなくなり、安全な医療の提供ができなくなる。			
	妥当性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い				北海道から示される、後志圏域病院群輪番制病院運営事業費負担金割合に基づくもの。			
	有効性	☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い				市民アンケートの急病等に対応する救急医療の仕組みの満足度が基準値より高い。			
	効率性	☐ 高い ☒ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い				救急医療体制の中でも棲み分けができており、事業の重複がない。			
評価の結果を踏まえた今後の方向性						継続			
【今後の方向性の説明】									
二次救急の搬送割合が増えている状況もあり、引き続き事業の実施を要する。									

事業名 小児救急医療支援事業費			担当 保健所保健総務課						
事業概要 入院が必要な小児の重症救急患者の医療体制の確保のため、市内唯一の小児救急対応医療機関である小樽協会病院に対し、補助金を交付する。									
		事業費(A)		概算人工		人件費換算(B)		トータルコスト(A)+(B)	
R6決算		9,992	千円	0.1	人	574	千円	10,566	千円
R7予算		10,110	千円	0.1	人	574	千円	10,684	千円
目標 小樽協会病院に対し補助金を交付し、小児救急の受入体制を維持する。									
実績・効果 小樽協会病院における小児救急受入患者数の実績は以下のとおり。 患者数 令和4年度：146人 令和5年度：169人 令和6年度：171人 本市の小児救急医療体制の維持に寄与した。									
点検・評価	点検項目		評価			評価の理由等			
	必要性		☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い			事業を廃止すると、協会病院の小児救急受入体制の維持に支障を来す。			
	妥当性		☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い			道の「小児救急医療支援事業費補助金交付要綱」に基づき、小児救急の受入体制に係る人件費等を考慮し、補助金を算定している。			
	有効性		☐ 高い ☒ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い			小児救急医療体制の維持につながっている。			
	効率性		☒ 高い ☐ どちらかという和高い ☐ どちらかという和低い ☐ 低い			・交付税措置がある。 ・補助金の内、2/3については道の補助金を活用。			
評価の結果を踏まえた今後の方向性						継続			
【今後の方向性の説明】 小樽協会病院の支援を継続することで、市内の小児救急医療体制の確保が期待されることから、引き続き、道の補助事業を活用しつつ支援を実施する。									